

SANNIX

for Energy, for Environment

Photovoltaic Solution

Total Sanitation

Environmental Resources Development

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

株式会社サニックス

2018年 11月14日

1. 平成30年北海道胆振東部地震の影響 P.3

2. 2019年3月期 第2四半期 決算概況 P.6

3. 2019年3月期 通期 業績見通し P.19

【免責事項】

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定買取制度」の動向および当該制度に関わる電力会社の動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

(注)

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「-」で表示しております。



for Energy, for Environment
Photovoltaic Solution
Total Sanitation
Environmental Resources Development

1. 平成30年北海道胆振東部地震の影響

苫小牧発電所の概要



概要

所在地

北海道苫小牧市字弁天504-4
(2003年4月 操業開始)

発電出力

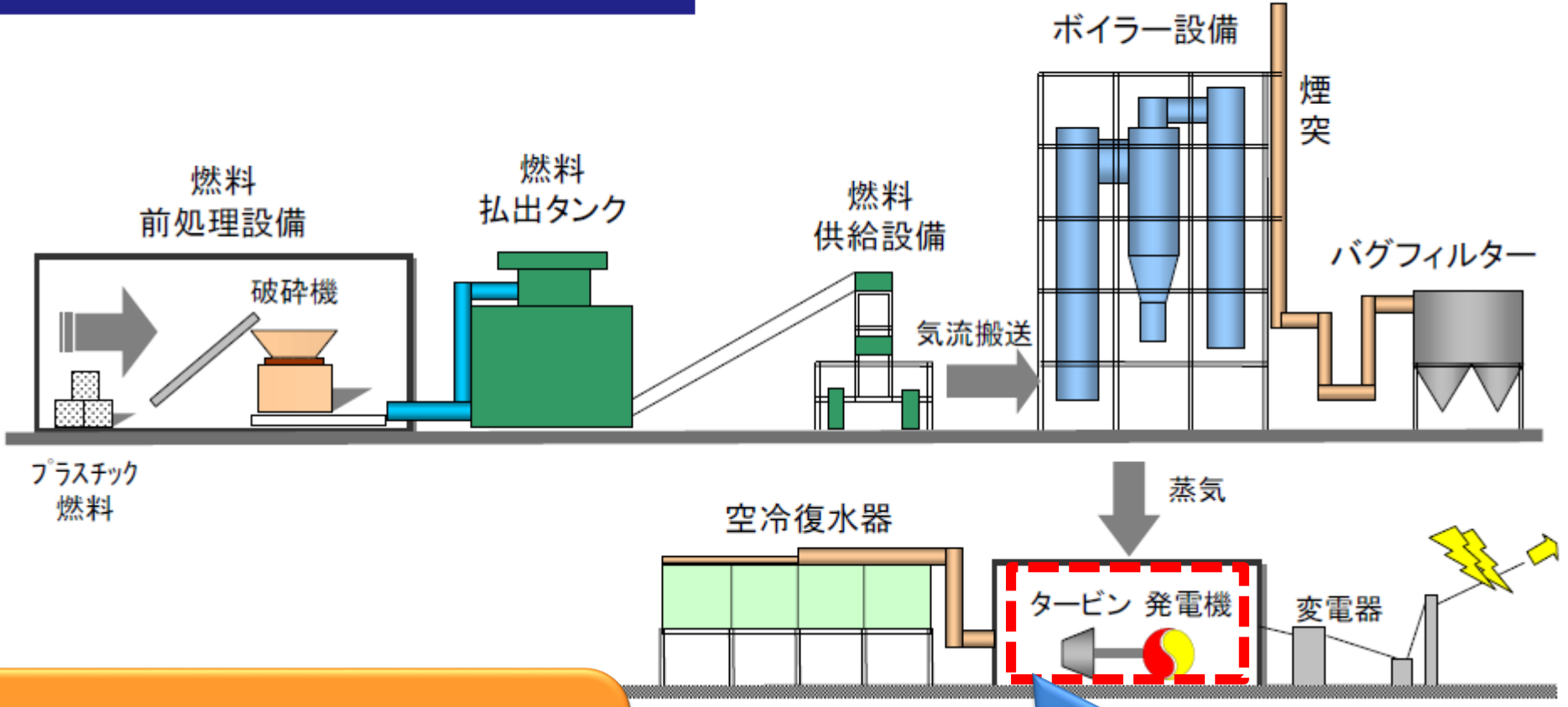
74,000kW
(一般世帯約23,000世帯分の使用電力量に相当)

プラスチック消費量

600~700 t / 日

※プラスチック燃料のみを使用した火力発電所

◆◆ 苫小牧発電所 設備フロー ◆◆



【影響額】

売上高	▲13.5億円
営業利益	▲11.1億円
特別損失	3.7億円

主要設備である蒸気タービン・発電機について修繕・部品交換が必要
一部、注文生産となる部品があるため、再稼動までは時間を要し、2019年3月初旬になる見込み



for Energy, for Environment
Photovoltaic Solution
Total Sanitation
Environmental Resources Development

2. 2019年3月期 第2四半期 決算概況

第2四半期 連結決算概況

(単位：百万円)

	2018/3期	2019/3期				
	2Q 累計実績	2Q 累計実績	前年同期比	前年同期差異	計画	計画差異
売上高	24,162	24,447	101.2%	+ 284	24,315	+ 132
売上総利益	6,685	7,503	112.2%	+ 818	7,489	+ 14
(売上高売上総利益率)	27.7%	30.7%			30.8%	
営業利益	138	688	496.6%	+ 549	868	△ 179
(売上高営業利益率)	0.6%	2.8%			3.6%	
経常利益	△ 29	689	—	+ 718	818	△ 128
(売上高経常利益率)	—	2.8%			3.4%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 155	194	—	+ 349	643	△ 448
(売上高四半期純利益率)	—	0.8%			2.6%	

- ①売上高 人員等経営資源を配分し事業規模の拡大を進めたことによりH S事業部門、E S事業部門がそれぞれ増収となり、新電力事業に係る電力販売量が拡大したことにより環境資源開発事業部門が増収となりました。その一方で、太陽光発電に係る市場規模縮小等の影響を受けS E事業部門は大幅な減収となりました。この結果、グループ全体の売上高は24,447百万円（前年同期比1.2%増）となりました。
- ②利益 増収を背景としてH S事業部門、E S事業部門、環境資源開発事業部門はそれぞれ増益となりました。その一方で、減収幅が大きかったS E事業部門は大幅な減益となりました。この結果、グループ全体の損益は、688百万円の営業利益（前年同期比396.6%増）、689百万円の経常利益（前年同期は29百万円の経常損失）、北海道胆振東部地震により被災した苫小牧発電所設備の原状回復費見込額377百万円を災害による損失として特別損失に計上し、194百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益（前年同期は155百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

第2四半期 セグメント別損益実績

(単位：百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	2Q 累計実績	売上比	2Q 累計実績	売上比	前年同期比	計画差異	計画売上比
売上高	24,162		24,447		101.2%	+ 132	
SE部門	8,716	36.1%	5,947	24.3%	68.2%	△ 233	25.4%
HS部門	4,611	19.1%	5,495	22.5%	119.2%	+ 215	21.7%
ES部門	685	2.8%	905	3.7%	132.1%	+ 64	3.5%
環境資源開発部門	10,149	42.0%	12,099	49.5%	119.2%	+ 86	49.4%
売上総利益	6,685	27.7%	7,503	30.7%	112.2%	+ 14	30.8%
販売費・一般管理費	6,546	27.1%	6,815	27.9%	104.1%	+ 194	27.2%
営業利益	138	0.6%	688	2.8%	496.6%	△ 179	3.6%
SE部門	937	(10.8%)	55	(0.9%)	5.9%	△ 375	(7.0%)
HS部門	749	(16.3%)	1,238	(22.5%)	165.2%	+ 204	(19.6%)
ES部門	98	(14.4%)	128	(14.2%)	130.6%	+ 24	(12.4%)
環境資源開発部門	△ 57	—	962	(8.0%)	—	+ 10	(7.9%)
配賦不能	△ 1,590	—	△ 1,696	—	—	△ 43	—

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を（ ）内に表示しております。

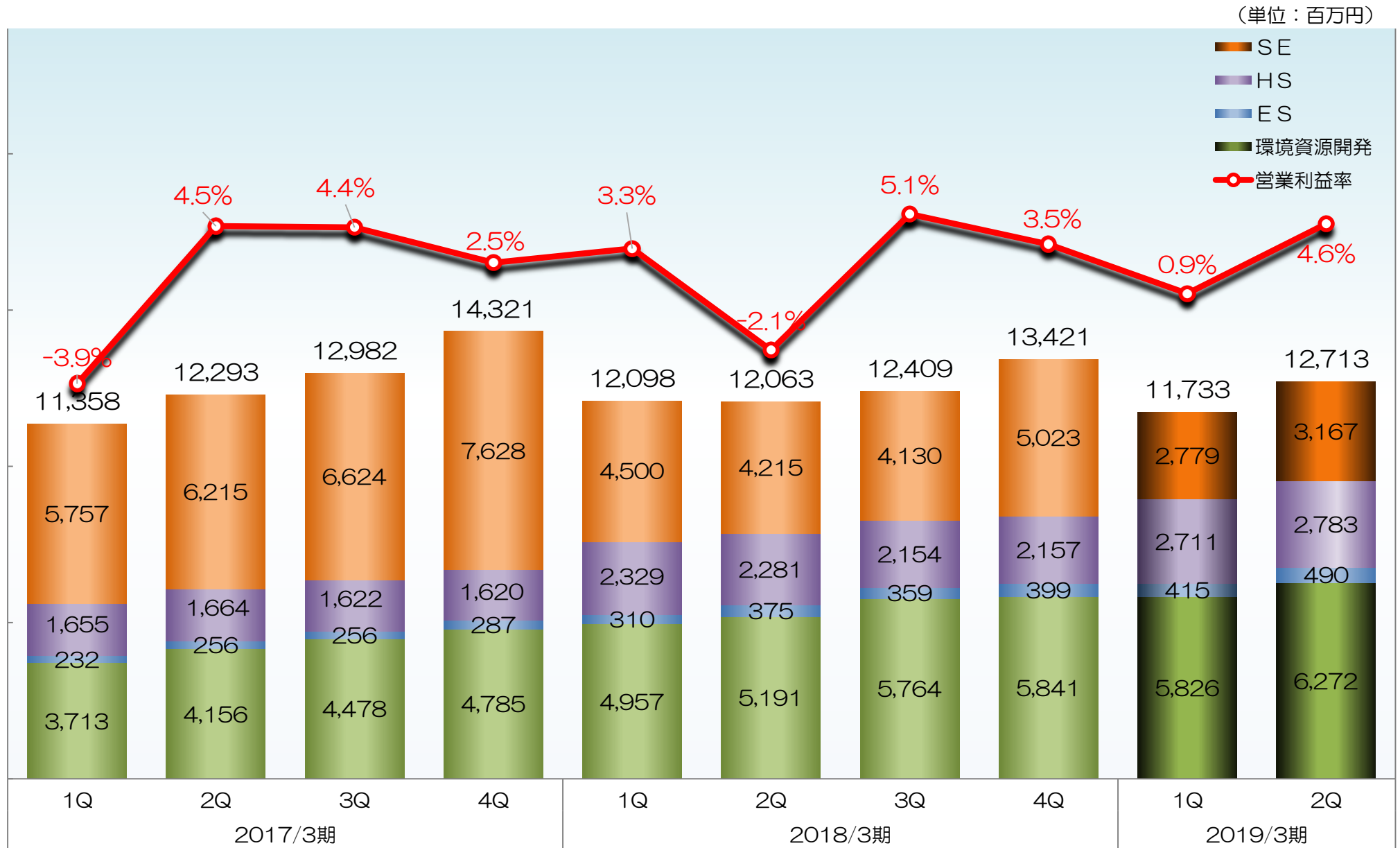
【参考】セグメント別四半期実績の推移

(単位：百万円)

	2018/3期								2019/3期			
	1 Q		2 Q		3 Q		4 Q		1 Q		2 Q	
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比
売上高	12,098		12,063		12,409		13,421		11,733		12,713	
SE部門	4,500	37.2%	4,215	34.9%	4,130	33.3%	5,023	37.4%	2,779	23.7%	3,167	24.9%
HS部門	2,329	19.3%	2,281	18.9%	2,154	17.4%	2,157	16.1%	2,711	23.1%	2,783	21.9%
ES部門	310	2.6%	375	3.1%	359	2.9%	399	3.0%	415	3.5%	490	3.9%
環境資源開発部門	4,957	41.0%	5,191	43.0%	5,764	46.5%	5,841	43.5%	5,826	49.7%	6,272	49.3%
売上総利益	3,722	30.8%	2,963	24.6%	3,735	30.1%	3,624	27.0%	3,540	30.2%	3,963	31.2%
販売費・一般管理費	3,325	27.5%	3,220	26.7%	3,100	25.0%	3,151	23.5%	3,436	29.3%	3,378	26.6%
営業利益	396	3.3%	△ 257	—	634	5.1%	473	3.5%	103	0.9%	584	4.6%
SE部門	442	(9.8%)	495	(11.8%)	409	(9.9%)	321	(6.4%)	△ 88	—	143	(4.5%)
HS部門	402	(17.3%)	347	(15.2%)	353	(16.4%)	367	(17.1%)	580	(21.4%)	658	(23.6%)
ES部門	40	(12.9%)	58	(15.6%)	31	(8.9%)	49	(12.4%)	52	(12.6%)	76	(15.6%)
環境資源開発部門	338	(6.8%)	△ 395	—	559	(9.7%)	470	(8.0%)	439	(7.5%)	522	(8.3%)
配賦不能	△ 826	—	△ 763	—	△ 719	—	△ 735	—	△ 880	—	△ 816	—

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を（ ）内に表示しております。

セグメント別売上高の推移



第2四半期 セグメント別実績【SE事業部門】

(単位:百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	2Q累計実績	売上比	2Q累計実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高合計	8,716		5,947		68.2%	6,181	
太陽光発電システム							
施工売上	7,992	91.7%	5,564	93.6%	69.6%	5,945	96.2%
卸販売	576	6.6%	288	4.9%	50.1%	180	2.9%
その他	147	1.7%	94	1.6%	63.9%	55	0.9%
売上原価	5,737	65.8%	4,174	70.2%	72.8%	4,043	65.4%
うち、材料費等*	3,659	42.0%	2,581	43.4%	70.5%	2,677	43.3%
うち、労務費	773	8.9%	523	8.8%	67.7%	485	7.8%
売上総利益	2,978	34.2%	1,772	29.8%	59.5%	2,138	34.6%
販売費・一般管理費	2,040	23.4%	1,717	28.9%	84.2%	1,707	27.6%
うち、人件費	869	10.0%	846	14.2%	97.4%	840	13.6%
その他	1,171	13.4%	870	14.6%	74.3%	866	14.0%
営業利益	937	10.8%	55	0.9%	5.9%	431	7.0%

*材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

「太陽光発電システム」が減収となりました。太陽光発電における市場規模縮小による影響に加え、当第2四半期連結累計期間中において、FITの事業計画認定に想定以上の遅れがあり、全体的に後ズレする状況となりました。この結果、売上高は5,947百万円(前年同期比31.8%減)と減収幅が大きくなりました。

営業損益は、HS事業部門への人員の異動等により経費削減、材料原価の低減等を推進しましたが、減収による減益幅が大きく、55百万円の営業利益(前年同期比94.1%減)となりました。

【参考】SE事業部門損益の四半期推移

(単位：百万円)

	2018/3期								2019/3期			
	1 Q		2 Q		3 Q		4 Q		1 Q		2 Q	
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比
売上高	4,500		4,215		4,130		5,023		2,779		3,167	
売上原価	2,998	66.6%	2,738	65.0%	2,813	68.1%	3,756	74.8%	2,018	72.6%	2,155	68.1%
材料費等※	1,901	42.3%	1,757	41.7%	1,873	45.4%	2,758	① 54.9%	1,246	44.8%	1,335	42.2%
労務費	403	9.0%	370	8.8%	351	8.5%	308	6.1%	269	9.7%	253	8.0%
外注加工費	227	5.1%	196	4.7%	174	4.2%	301	6.0%	111	4.0%	187	5.9%
その他	465	10.4%	414	9.8%	414	10.0%	387	7.7%	391	14.1%	378	11.9%
売上総利益	1,501	33.4%	1,476	35.0%	1,316	31.9%	1,267	25.2%	761	27.4%	1,011	31.9%
販売費・一般管理費	1,059	23.5%	980	23.3%	906	22.0%	946	18.8%	849	30.6%	868	27.4%
人件費	439	9.8%	430	10.2%	424	10.3%	475	9.5%	415	14.9%	431	13.6%
その他	620	13.8%	550	13.1%	481	11.7%	471	9.4%	434	15.6%	436	13.8%
営業利益	442	9.8%	495	11.8%	409	9.9%	321	6.4%	△ 88	—	143	4.5%

※ 材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

- ① 2018/3期4Qの材料費等は、自社製パワコンコンディショナに係る棚卸資産の評価を見直した結果、棚卸資産評価損401百万円を計上した。当該評価損の影響を除いた場合の売上比は46.9%である。

第2四半期 セグメント別実績【HS事業部門】

(単位：百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	2Q 累計実績	売上比	2Q 累計実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	4,611		5,495		119.2%	5,280	
白蟻防除施工	1,364	29.6%	1,831	33.3%	134.2%	1,693	32.1%
床下・天井裏換気システム	635	13.8%	870	15.8%	136.9%	750	14.2%
基礎補修・家屋補強工事	911	19.8%	1,110	20.2%	121.8%	1,078	20.4%
その他	1,699	36.9%	1,681	30.6%	99.0%	1,756	33.3%
売上原価	2,087	45.3%	2,167	39.4%	103.8%	2,293	43.4%
うち、労務費	606	13.2%	665	12.1%	109.8%	658	12.5%
売上総利益	2,523	54.7%	3,327	60.6%	131.8%	2,987	56.6%
販売費・一般管理費	1,774	38.5%	2,089	38.0%	117.8%	1,953	37.0%
うち、人件費	1,131	24.5%	1,286	23.4%	113.7%	1,206	22.8%
営業利益	749	16.3%	1,238	22.5%	165.2%	1,034	19.6%

HS事業部門の事業規模拡大を目的に、異動により人員増を図り、一般家屋に係るメンテナンスについて提案をきめ細かく行えるよう営業及び施工体制を強化しました。「白蟻防除施工」が前年同期比34.2%増、「床下・天井裏換気システム」が同36.9%増、「基礎補修・家屋補強工事」が同21.8%増となり、この結果、売上高は5,495百万円（前年同期比19.2%増）となりました。

営業損益は、人員増により人件費等のコストが増加したものの、増収幅が大きかったことや、施工効率の改善や外注加工費率の低下などにより、1,238百万円の営業利益（前年同期比65.2%増）となりました。

限界利益率・損益分岐売上高の推移

■SE事業部門の推移

	2018/3期				2019/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
限界利益率 (%)	48.4	49.2	46.3	43.7	44.1	45.7
月平均固定費 (百万円/月)	578	525	499	488	437	434
損益分岐売上高 (百万円/月)	1,193	1,067	1,078	1,118	985	934

2018/3期4Qの限界利益率については、材料費に含まれる棚卸資産評価損401百万円は除く。

■HS事業部門の推移

	2018/3期				2019/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
限界利益率 (%)	71.2	70.5	73.2	74.5	75.6	76.0
月平均固定費 (百万円/月)	399	412	403	407	489	485
損益分岐売上高 (百万円/月)	561	584	551	547	620	628

※売上高に占める変動費(材料費・外注加工費等)を除いた率を限界利益率として表示。

損益分岐売上高＝固定費÷限界利益率

第2四半期 セグメント別実績【ES事業部門】

(単位：百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	2Q累計実績	売上比	2Q累計実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	685		905		132.1%	841	
売上原価	354	51.7%	433	47.9%	122.3%	440	52.3%
うち、労務費	87	12.7%	105	11.7%	121.6%	103	12.2%
売上総利益	331	48.3%	472	52.1%	142.6%	401	47.7%
販売費・一般管理費	232	33.9%	343	37.9%	147.7%	297	35.3%
うち、人件費	143	21.0%	204	22.6%	142.4%	188	22.4%
営業利益	98	14.4%	128	14.2%	130.6%	104	12.4%

ES事業部門の事業規模拡大を目的に、異動により人員増を図るとともに、ビル・マンション等のオーナーに対する営業強化、管理会社等提携先の関係強化を図ることで、主力商品である「防錆機器取付施工（商品名：ドールマンショック）」が前年同期比79.8%増となり、この結果、売上高は905百万円（前年同期比32.1%増）となりました。

営業損益は、人員増により人件費等のコストが増加したものの、増収幅が大きかったことや、施工効率の改善や外注加工費率の低下などにより、128百万円の営業利益（前年同期比30.6%増）となりました。

第2四半期 セグメント別実績【環境資源開発事業部門】

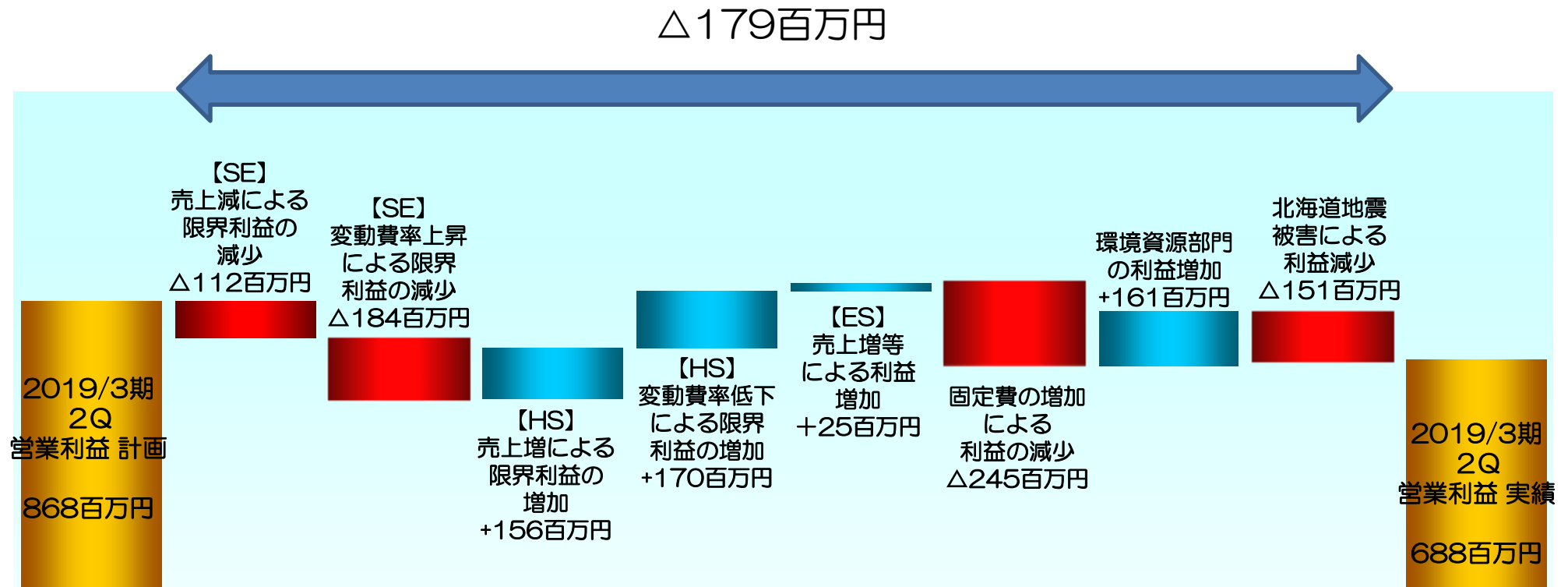
(単位：百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	2Q累計実績	売上比	2Q累計実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高合計	10,149		12,099		119.2%	12,013	
プラスチック燃料	3,672	36.2%	4,105	33.9%	111.8%	3,929	32.7%
売電収入	4,878	48.1%	6,342	52.4%	130.0%	6,520	54.3%
有機廃液処理	889	8.8%	925	7.6%	104.0%	919	7.7%
埋立処理	359	3.5%	377	3.1%	104.9%	310	2.6%
その他	349	3.4%	349	2.9%	99.9%	334	2.8%
売上総利益	851	8.4%	1,930	16.0%	226.7%	1,963	16.3%
販売費・一般管理費	908	9.0%	968	8.0%	106.6%	1,011	8.4%
営業利益	△57	—	962	8.0%	—	952	7.9%

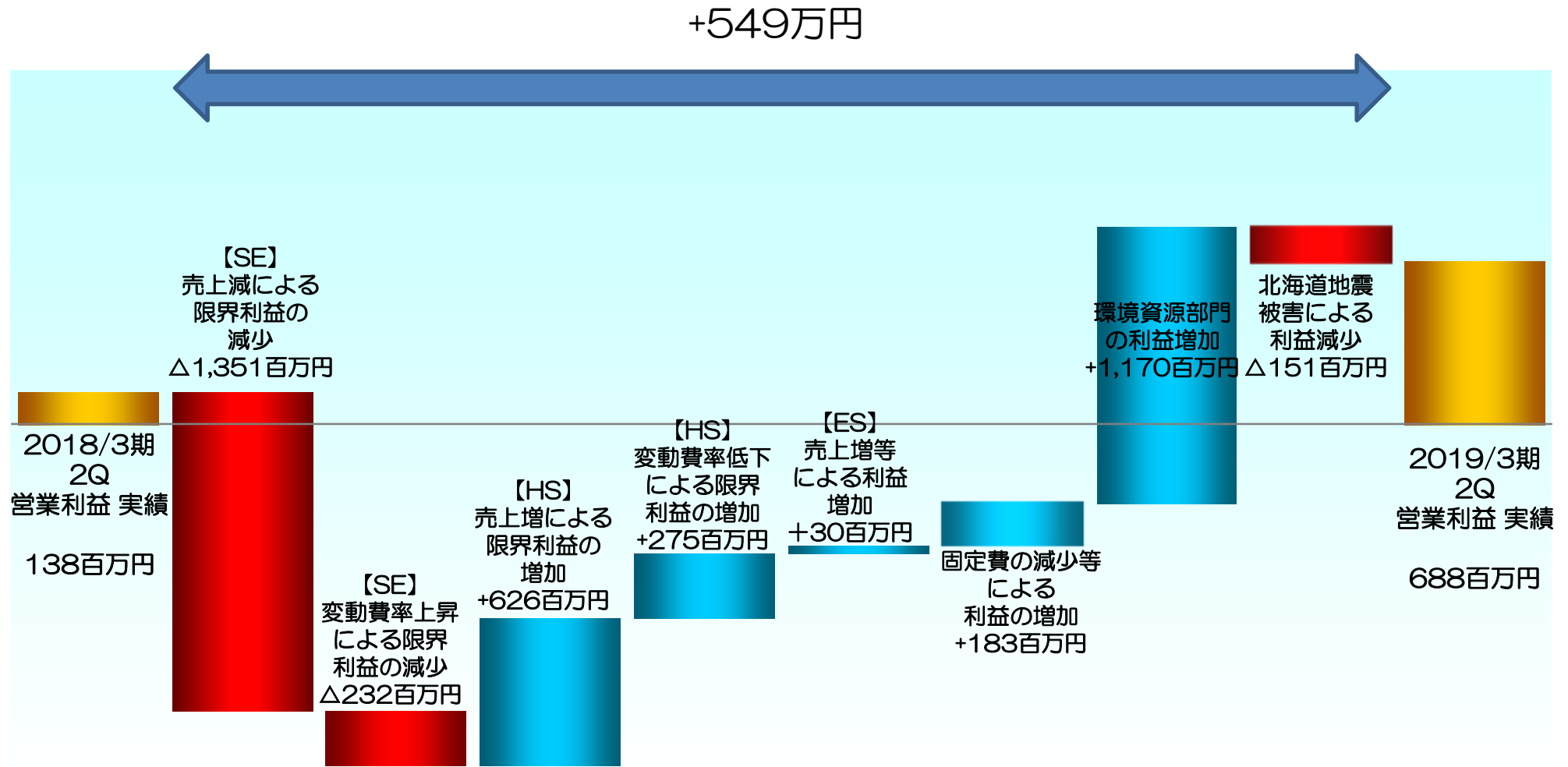
燃料化を目的とする廃プラスチック類の受入量が増加し、「プラスチック燃料」が前年同期比11.8%増、新電力事業が拡大し、「売電収入」が前年同期比30.0%増となりました。この結果、売上高は12,099百万円（前年同期比19.2%増）となりました。

営業損益は、プラスチック燃料について、廃プラスチック類の受入単価がアップし、燃料品質の向上及び効率性の改善により原価が低減し、また新電力事業による増収及び電力調達コストの安定化が寄与し、962百万円の営業利益（前年同期は57百万円の営業損失）となりました。

【参考】営業利益 増減理由 (第2四半期_計画対実績)



【参考】 営業利益 増減理由 (第2四半期_前期対今期)





for Energy, for Environment
Photovoltaic Solution
Total Sanitation
Environmental Resources Development

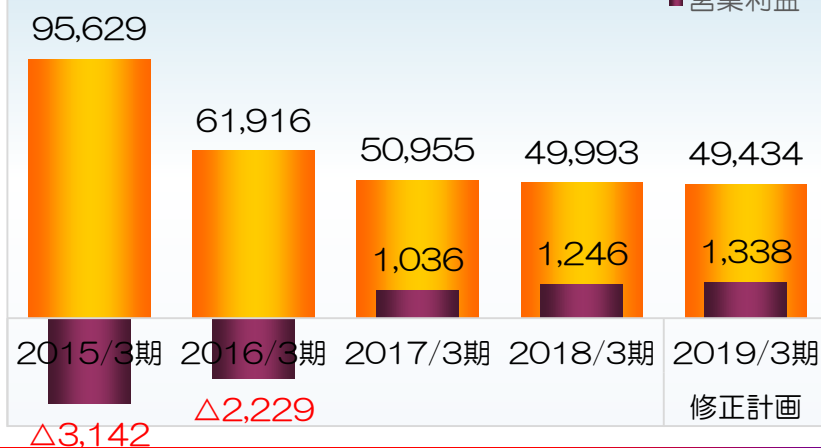
3. 2019年3月期 通期 業績見通し

(単位：百万円)

	2018/3期	2019/3期			
	実績	修正計画	前期比	5/14発表時	
				計画	差異
売上高	49,993	49,434	98.9%	50,000	△ 565
売上総利益	14,044	14,735	104.9%	15,440	△ 704
(売上高売上総利益率)	28.1%	29.8%			
営業利益	1,246	1,338	107.3%	2,190	△ 851
(売上高営業利益率)	2.5%	2.7%			
経常利益	1,019	1,290	126.6%	2,100	△ 809
(売上高経常利益率)	2.0%	2.6%			
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,180	534	45.3%	1,610	△ 1,075
(売上高当期純利益率)	2.4%	1.1%			

売上高・営業利益の推移

(単位：百万円)



通期業績は、苫小牧発電所の運転再開時期は2019年3月初旬頃の見込みであり、同発電所の停止期間中において売電収入を見込めない状況であることから、下方修正をいたしました。

利益は、売上高が前回予想を下回ることや固定費等の負担があることから、営業利益、経常利益は前回予想を下回る見込みであります。また、苫小牧発電所の現状回復費用を災害による損失として特別損失に計上するため、親会社株主に帰属する四半期純利益は前回予想を下回る見通しであります。

2019年3月期 セグメント別業績見通し（前期比較）

（単位：百万円）

		2019/3期										
		上半期			下半期			通期				
		実績	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前期差異		
売	上	高	24,447		+ 284	24,987		Δ 843	49,434		Δ 558	
	S	E	部門	5,947	24.3%	Δ 2,768	7,296	29.2%	Δ 1,857	13,243	26.8%	Δ 4,626
	H	S	部門	5,495	22.5%	+ 883	5,443	21.8%	+ 1,132	10,938	22.1%	+ 2,015
	E	S	部門	905	3.7%	+ 220	873	3.5%	+ 114	1,778	3.6%	+ 334
	環境資源開発部門		12,099	49.5%	+ 1,949	11,374	45.5%	Δ 232	23,473	47.5%	+ 1,717	
売上総利益			7,503	30.7%	+ 818	7,231	28.9%	Δ 127	14,735	29.8%	+ 690	
販売費・一般管理費			6,815	27.9%	+ 268	6,582	26.3%	+ 330	13,397	27.1%	+ 599	
営業利益			688	2.8%	+ 549	649	2.6%	Δ 458	1,338	2.7%	+ 91	
	S	E	部門	55	(0.9%)	Δ 882	1,066	(14.6%)	+ 335	1,121	(8.5%)	Δ 546
	H	S	部門	1,238	(22.5%)	+ 488	1,024	(18.8%)	+ 302	2,262	(20.7%)	+ 791
	E	S	部門	128	(14.2%)	+ 30	111	(12.8%)	+ 30	240	(13.5%)	+ 60
	環境資源開発部門		962	(8.0%)	+ 1,019	13	(0.1%)	Δ 1,016	975	(4.2%)	+ 3	
	配賦不能		Δ1,696	—	Δ 106	Δ1,565	—	Δ 110	Δ3,262	—	Δ 217	
経常利益			689	2.8%	+ 718	601	2.4%	Δ 447	1,290	2.6%	+ 270	
親会社株主に帰属 する当期純利益			194	0.8%	+ 349	340	1.4%	Δ 994	534	1.1%	Δ 645	

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を（ ）内に表示しております。

2019年3月期 セグメント別業績見通し（期初計画比較）

（単位：百万円）

		2019/3期								
		上半期			下半期			通期		
		実績	売上比	期初計画 差異	修正計画	売上比	期初計画 差異	修正計画	売上比	期初計画 差異
売	上	24,447		+ 132	24,987		Δ 697	49,434		Δ 565
	S E 部 門	5,947	24.3%	Δ 233	7,296	29.2%	Δ 87	13,243	26.8%	Δ 321
	H S 部 門	5,495	22.5%	+ 215	5,443	21.8%	+ 303	10,938	22.1%	+ 518
	E S 部 門	905	3.7%	+ 64	873	3.5%	+ 30	1,778	3.6%	+ 94
	環境資源開発部門	12,099	49.5%	+ 86	11,374	45.5%	Δ 943	23,473	47.5%	Δ 857
売上総利益		7,503	30.7%	+ 14	7,231	28.9%	Δ 719	14,735	29.8%	Δ 704
販売費・一般管理費		6,815	27.9%	+ 194	6,582	26.3%	Δ 46	13,397	27.1%	+ 147
営業利益		688	2.8%	Δ 179	649	2.6%	Δ 672	1,338	2.7%	Δ 851
	S E 部 門	55	(0.9%)	Δ 375	1,066	(14.6%)	Δ 10	1,121	(8.5%)	Δ 386
	H S 部 門	1,238	(22.5%)	+ 204	1,024	(18.8%)	+ 252	2,262	(20.7%)	+ 456
	E S 部 門	128	(14.2%)	+ 24	111	(12.8%)	+ 3	240	(13.5%)	+ 28
	環境資源開発部門	962	(8.0%)	+ 10	13	(0.1%)	Δ 890	975	(4.2%)	Δ 880
	配賦不能	Δ1,696	—	Δ 43	Δ1,565	—	Δ 26	Δ3,262	—	Δ 70
経常利益		689	2.8%	Δ 128	601	2.4%	Δ 680	1,290	2.6%	Δ 809
親会社株主に帰属 する当期純利益		194	0.8%	Δ 448	340	1.4%	Δ 626	534	1.1%	Δ 1,075

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を（ ）内に表示しております。

【参考】2019年3月期 セグメント別業績進捗状況

(単位:百万円)

	2018/3期		2019/3期					
	通期		2Q累計			通期		
	実績	売上比	実績	売上比	進捗率	修正計画	売上比	前期差異
売上高	49,993		24,447		49.5%	49,434		Δ 558
S E 部門	17,870	35.7%	5,947	24.3%	44.9%	13,243	26.8%	Δ 4,626
H S 部門	8,922	17.8%	5,495	22.5%	50.2%	10,938	22.1%	+ 2,015
E S 部門	1,444	2.9%	905	3.7%	50.9%	1,778	3.6%	+ 334
環境資源開発部門	21,755	43.5%	12,099	49.5%	51.5%	23,473	47.5%	+ 1,717
売上総利益	14,044	28.1%	7,503	30.7%	50.9%	14,735	29.8%	+ 690
販売費・一般管理費	12,798	25.6%	6,815	27.9%	50.9%	13,397	27.1%	+ 599
営業利益	1,246	2.5%	688	2.8%	51.5%	1,338	2.7%	+ 91
S E 部門	1,668	(9.3%)	55	(0.9%)	4.9%	1,121	(8.5%)	Δ 546
H S 部門	1,471	(16.5%)	1,238	(22.5%)	54.7%	2,262	(20.7%)	+ 791
E S 部門	179	(12.5%)	128	(14.2%)	53.5%	240	(13.5%)	+ 60
環境資源開発部門	972	(4.5%)	962	(8.0%)	98.7%	975	(4.2%)	+ 3
配賦不能	Δ3,045	—	Δ1,696	—	52.0%	Δ3,262	—	Δ 217
経常利益	1,019	2.0%	689	2.8%	53.4%	1,290	2.6%	+ 270
親会社株主に帰属する当期純利益	1,180	2.4%	194	0.8%	36.3%	534	1.1%	Δ 645

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を（ ）内に表示しております。

今期の課題

SE事業部門

- ・市場動向に適した体制の構築
- ・新たな販売方法の開発（土地付太陽光、蓄電池 等）

HS事業部門

- ・人員、拠点の増加
- ・新規顧客獲得

ES事業部門

- ・紹介案件増に向けアライアンスの拡大・強化
- ・ペストコントロールの拡充

環境資源開発事業部門

- ・廃プラスチック受入単価交渉の継続
- ・発電所の効率的な稼働、燃料品質の改善
- ・新電力事業の需要家拡大

本社部門

- ・業務改善に向けたシステム構築
- ・部門横断的なコスト削減

現在の進捗状況

- ・買取価格低下に対応するべく、原材料の低減、組織・人員体制の見直しにより、コスト対応は進んでいる。
- ・今期のFIT申請に間に合うための電力会社への期限を11月としているが多く、営業活動を強化中。

- ・主力の各商品がそれぞれ計画を上回っており、底上げがされている。
- ・12月に倉敷営業所が稼働開始し、今期4店目の新設となる。

- ・人員増加により顧客管理の強化を図り、前期に続き、防錆機器の販売拡大に大きな成果が出ている。
- ・アライアンスの強化が図れており、提携先数は前々期比で約4倍、前期に対しては1.3倍となっている。

- ・苫小牧発電所が地震による被害を受け、稼働再開は2019年3月になる予定。原状回復のほか、来年度実施予定であったタービンの法定点検についても前倒しで行うこととした。
- ・廃プラスチックの受入は、単価・数量ともに増加している。

- ・営業面での、コスト削減・省力化・生産性向上を図るべく、書類の電子化、新システムの導入・拡大中。

(単位:百万円)

	2019/3期								
	上半期			下半期			通期		
	実績	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前期差異
売上高合計	5,947		Δ 2,768	7,296		Δ 1,857	13,243		Δ 4,626
太陽光発電システム									
施工売上	5,564	93.6%	Δ 2,427	7,078	97.0%	Δ 1,576	12,642	95.5%	Δ 4,004
卸販売	288	4.9%	Δ 287	183	2.5%	Δ 266	472	3.6%	Δ 554
その他	94	1.6%	Δ 53	33	0.5%	Δ 15	128	1.0%	Δ 68
売上原価	4,174	70.2%	Δ 1,563	4,549	62.4%	Δ 2,020	8,723	65.9%	Δ 3,584
うち、材料費等※	2,581	43.4%	Δ 1,077	3,147	43.1%	Δ 1,484	5,729	43.3%	Δ 2,562
うち、労務費	523	8.8%	Δ 250	449	6.2%	Δ 210	972	7.3%	Δ 460
売上総利益	1,772	29.8%	Δ 1,205	2,746	37.6%	+ 162	4,519	34.1%	Δ 1,042
販売費・一般管理費	1,717	28.9%	Δ 323	1,680	23.0%	Δ 172	3,398	25.7%	Δ 495
うち、人件費	846	14.2%	Δ 22	857	11.8%	Δ 42	1,704	12.9%	Δ 65
その他	870	14.6%	Δ 300	822	11.3%	Δ 129	1,693	12.8%	Δ 430
営業利益	55	0.9%	Δ 882	1,066	14.6%	+ 335	1,121	8.5%	Δ 546

※材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

SE事業部門は、太陽光発電事業の市場環境は厳しく、前期比大幅な減収を見込んでいる。また、FITにおける事業計画に係る認定手続きの遅れによる工事着工のずれが発生していたが、下半期の売上高は遅れが解消し当初計画を据え置いた。なお、通期は当初計画を減額修正した。

利益については、人員配置見直しによる人件費やその他固定費低減に加え、部材等のコストダウンも概ね計画線上で進捗しており、下半期は当初計画を変更していない。

2019年3月期 セグメント別見通し【HS事業部門】

(単位:百万円)

	2019/3期								
	上半期			下半期			通期		
	実績	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前期差異
売上高	5,495		+ 883	5,443		+ 1,132	10,938		+ 2,015
白蟻防除施工	1,831	33.3%	+ 467	1,478	27.2%	+ 213	3,309	30.3%	+ 680
床下・天井裏換気システム	870	15.8%	+ 234	820	15.1%	+ 201	1,691	15.5%	+ 436
基礎補修・ 家屋補強工事	1,110	20.2%	+ 199	1,281	23.5%	+ 235	2,391	21.9%	+ 434
その他	1,681	30.6%	△ 17	1,863	34.2%	+ 481	3,545	32.4%	+ 463
売上原価	2,167	39.4%	+ 79	2,312	42.5%	+ 424	4,480	41.0%	+ 504
うち、労務費	665	12.1%	+ 59	680	12.5%	+ 73	1,345	12.3%	+ 132
売上総利益	3,327	60.6%	+ 803	3,130	57.5%	+ 707	6,458	59.0%	+ 1,511
販売費・一般管理費	2,089	38.0%	+ 315	2,106	38.7%	+ 404	4,195	38.4%	+ 719
うち、人件費	1,286	23.4%	+ 154	1,370	25.2%	+ 297	2,656	24.3%	+ 452
営業利益	1,238	22.5%	+ 488	1,024	18.8%	+ 302	2,262	20.7%	+ 791

HS事業部門は、SE事業部門からの異動による増員によって、既存顧客管理体制の強化が進んでおり、上半期売上高は計画に比し好調に推移した。下半期も現在の取り組みを継続しながら、新規顧客の開拓を強化し、売上高については、下半期及び通期ともに当初計画を増額修正した。

利益については、人員増及び売上高増などにより固定費は増加しているが、下半期もしっかりとした増収基調が見込めることから、下半期及び通期ともに当初計画を増額修正した。

限界利益率・損益分岐売上高の推移

■SE事業部門の推移

	2018/3期			2019/3期		
	上半期	下半期	通期	上半期実績	下半期修正計画	通期修正計画
限界利益率 (%)	48.8	44.9	46.8	44.9	48.4	46.9
月平均固定費 (百万円/月)	551	494	522	430	408	419
損益分岐売上高 (百万円/月)	1,130	1,101	1,117	958	844	901

2018/3期4Qの限界利益率については、材料費に含まれる棚卸資産評価損401百万円は除く。

■HS事業部門の推移

	2018/3期			2019/3期		
	上半期	下半期	通期	上半期実績	下半期修正計画	通期修正計画
限界利益率 (%)	70.8	73.8	72.3	75.8	73.6	74.7
月平均固定費 (百万円/月)	405	405	405	473	489	481
損益分岐売上高 (百万円/月)	573	549	561	624	665	644

※売上高に占める変動費(材料費・外注加工費等)を除いた率を限界利益率として表示。

損益分岐売上高 = 固定費 ÷ 限界利益率

(単位:百万円)

	2019/3期								
	上半期			下半期			通期		
	実績	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前期差異
売上高合計	905		+ 220	873		+ 114	1,778		+ 334
売上原価	433	47.9%	+ 79	451	51.7%	+ 50	884	49.7%	+ 129
うち、労務費	105	11.7%	+ 18	103	11.8%	+ 9	209	11.8%	+ 28
売上総利益	472	52.1%	+ 141	421	48.3%	+ 63	894	50.3%	+ 204
販売費・一般管理費	343	37.9%	+ 110	309	35.5%	+ 33	653	36.7%	+ 143
うち、人件費	204	22.6%	+ 61	193	22.2%	+ 23	398	22.4%	+ 84
営業利益	128	14.2%	+ 30	111	12.8%	+ 30	240	13.5%	+ 60

ES事業部門は、SE事業部門からの異動による増員を図り、ビル・マンション等の管理会社とのアライアンス活動等を強化し、新規顧客の開拓、既存顧客のアフター体制を拡充しており、「防錆機器取付施工（商品名：ドールマンショック）」を中心に上半期売上高は計画に比し好調に推移した。現在の取り組みを継続することで下半期は当初計画を変更しないが、通期については当初計画を増額修正した。

利益については、下半期も堅調な増収が見込めることから当初計画を維持するが、通期としては当初計画を増額修正した。

(単位:百万円)

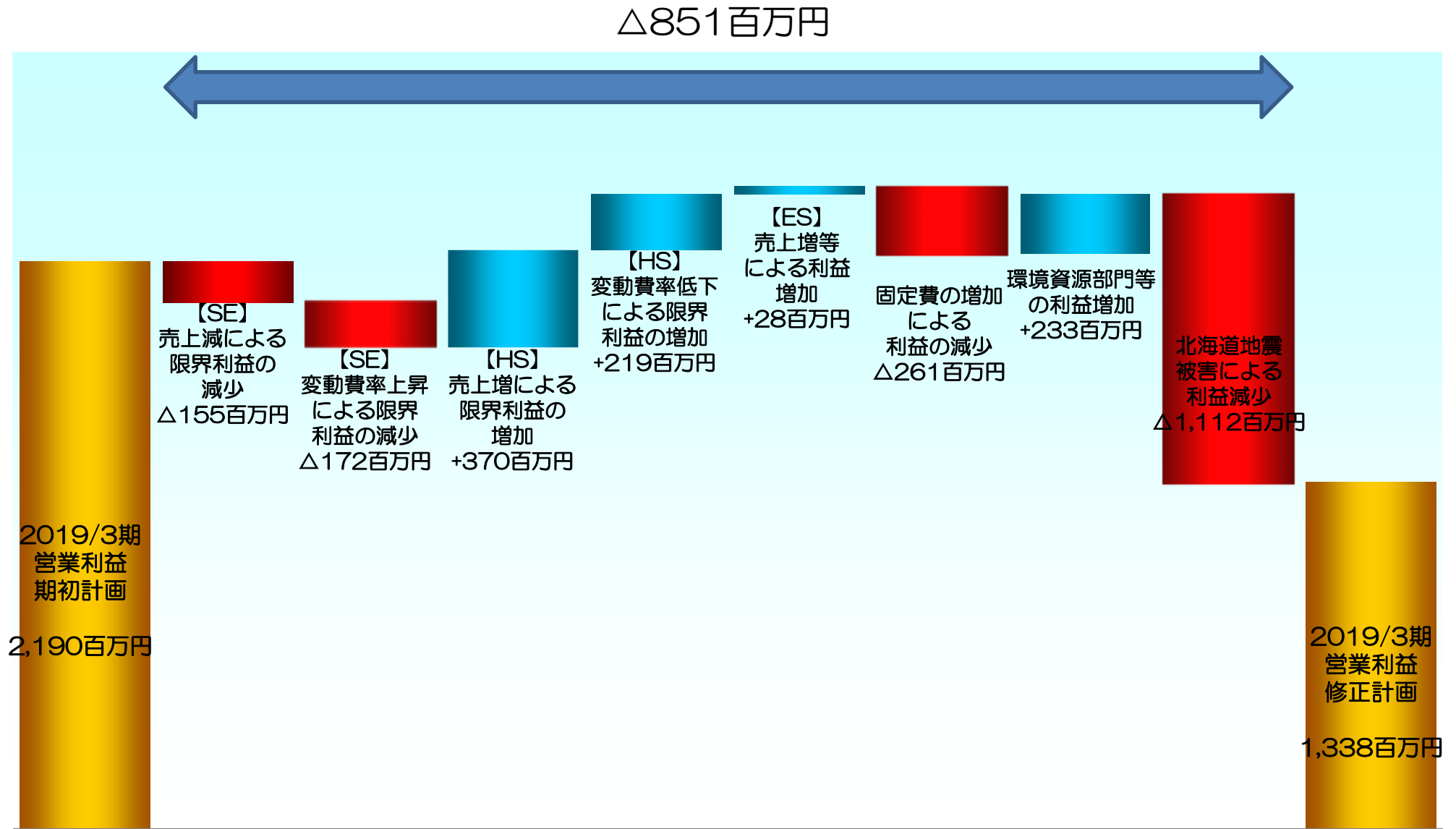
	2019/3期								
	上半期			下半期			通期		
	実績	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前年同期 差異	修正計画	売上比	前期差異
売上高合計	12,099		+1,949	11,374		△232	23,473		+1,717
プラスチック燃料	4,105	33.9%	+432	4,017	35.3%	+133	8,122	34.6%	+566
売電収入	6,342	52.4%	+1,464	5,753	50.6%	△463	12,096	51.5%	+1,001
有機廃液処理	925	7.6%	+35	995	8.8%	+136	1,920	8.2%	+172
埋立処理	377	3.1%	+17	280	2.5%	△14	657	2.8%	+2
その他	349	2.9%	△0	327	2.9%	△24	676	2.9%	△24
売上総利益	1,930	16.0%	+1,078	932	8.2%	△1,061	2,863	12.2%	+17
販売費・一般管理費	968	8.0%	+59	919	8.1%	△45	1,887	8.0%	+14
営業利益	962	8.0%	+1,019	13	0.1%	△1,016	975	4.2%	+3

環境資源開発事業部門は、売上高について第2四半期累計で計画どおりに推移しましたが、地震の影響により、苫小牧発電所の運転再開が3月初旬頃になる見通しであることから、売電収入が減収となる見込であります。この影響により、下半期及び通期ともに当初計画を減額修正した。

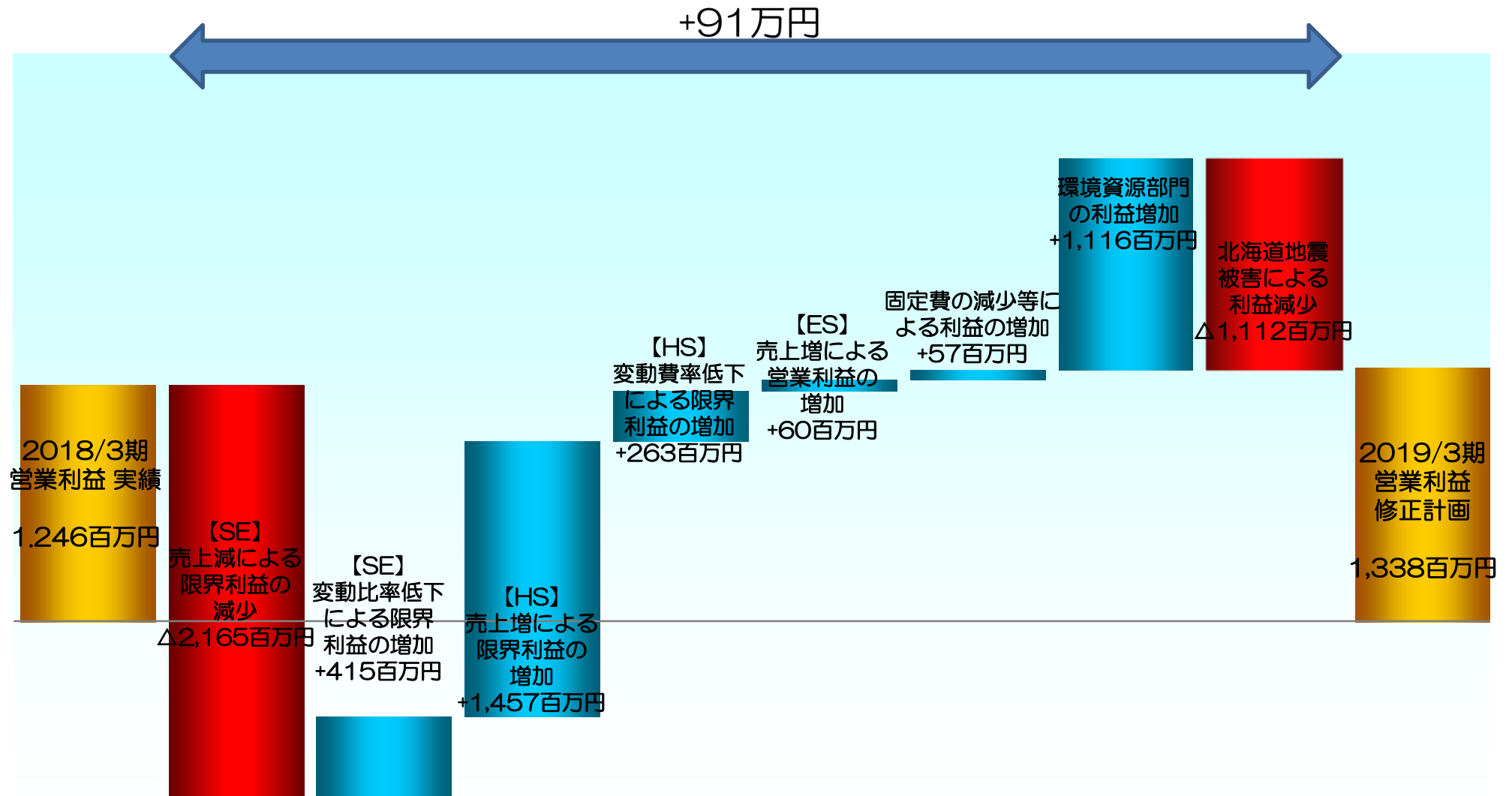
利益については、売電収入が減収となることや固定費等の負担がおおきいことから、下半期及び通期ともに当初計画を減額修正した。

なお、当初11月に計画しておりました苫小牧発電所の定期修繕については、今回の停止期間中に予定通り実施します。

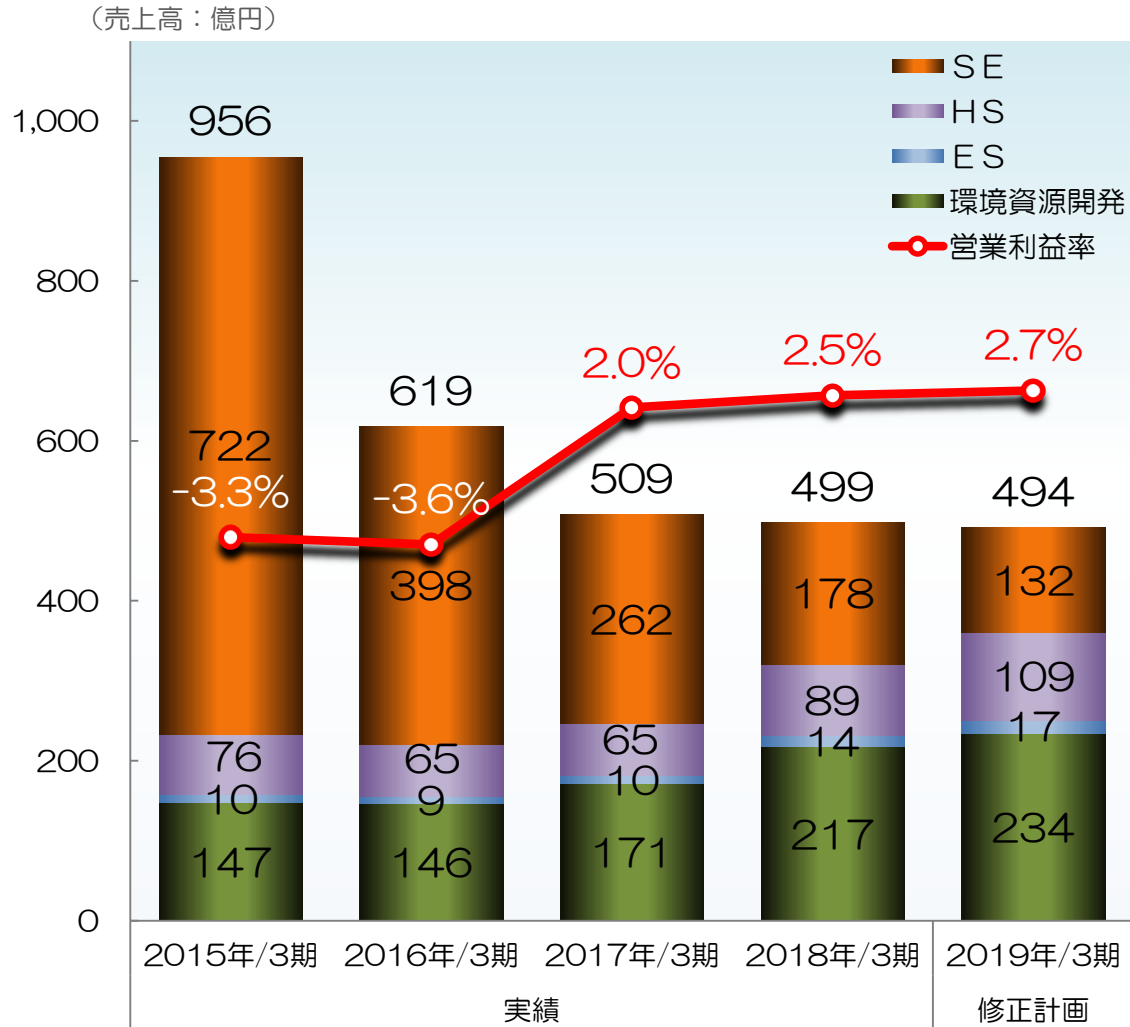
【参考】 営業利益 増減理由 (期初計画対修正計画)



【参考】 営業利益 増減理由 (前期実績対修正計画)



■ 2019年3月期セグメント別売上高・営業利益率の見通し



2019年3月期見通し

売上高： **49,434**百万円

営業利益： **1,338**百万円

営業利益率： **2.7%**